



Gallery

今月のニュートレンドを見る、読む、探る。
情報を楽しむ、オモチャ箱コラムスペース。

VALUABLE PIECES OF INFORMATION

S POT

ボックス・サウンドに じっくり耳を傾ける。

オルゴールと言うと、誰もがなぜか懐かしい気分になってしまう。生まれてフツ気づくと、天井にはクルクル回るオルゴールがあったり、女のこぼったら、小さな木箱のオルゴールに大切なものをしまい込んだりした記憶があるはず。つまりは、大人になるにしたがって、いつしか縁遠くになってしまうものひとつだからであろう。でも、やはり大人になっても、あのメルヘンチックな音は忘れられないのである。

で、ここにご紹介するのは、世界のさまざまなオルゴールを集めている「オルゴール館」。小さなボックス・タイプのものから、ディスク・タイプと呼ばれている大型のものまで、数多くのコレクションが展示されている。しかも月曜～土曜の午後1時30分、3時に行けば、実際にそのオルゴールの音も聞けるのだ。中にはスタンウェイの自動演奏ピアノも展示しており、ルービンシュタインといった名演奏家の音を再現してくれるのだから、クラシック好きの人間にはた



まらない。

ちょっと古びたツタのからまる洋館風の建物に入り、アメリカやヨーロッパのアンティークオルゴールに聞き入る。決して女のこぼかりが来るわけではなく、40～50代の男性ファンも多いのが、シリンダー・タイプのオルゴールボックスのネジをカリカリと巻く。スイッチを入れると、シリンダーが回り、音をはじめていく。中にはドラムやベルが付いたものもあり、思わず心が澄んで、落ちついた気分になってくれる。オルゴールの音は、なぜかわれわれの心をなごませてくれる不思議な力を持っているのだ。

オルゴール館 OPEN: 月～土曜(祭日を除く) 10:00～17:00
入場料500円

1930年・スタンウェイの自動演奏ピアノ。ロールが150本コレクションしており、いろいろな演奏家の音を聞くことができる。



さまざまなオルゴールのコレクションが展示されている。



1840年・スイス製のベル、ドラム付のシリンダー・タイプ。アニーローリーなど8曲が聞ける。



1886年・ドイツ・ポリフォン社のディスク・タイプのオルゴール。1ペニー硬貨を入れると、勝手にディスクが回りだす。



イラスト/林まゆみ